

兵
懷
中
便
覽

全

129
200
1

集七腰中便覧九例

興書卷千八百六十四年開版

亞米利加ノ監軍スル上氏所

著ノ兵學韻府并ニ同國ノカ

ピタンレンダ氏ノ用兵論ヲ

抄訳シタルモノナリ

一書中尺度量目時刻ヲ本邦ノ

制ニ直シタルハ兵士ノ便覧

ニ供センカ為ナリ但シ一斤

ト記シタルモノハ百二十一

及強ナリ一間ト記シタルハ

六尺ナリ

慶應四年
戊辰七月

書中日録

一 斥候ノ事

一 相圖ノ事

一 遠近測量ノ事

一 野戦若ノ事

一 河ヲ渡ル事

一 氷ノ上ヲ渡ル事

一 敵ノ大砲ニ釘打ツ事

一 釘打タル大砲ヲ繕フ事

一 陣中死刑ト四ヶ条ノ事

目録終

岩山文庫

兵士懐中便覧

福澤諭吉 譯

斥候ノ事

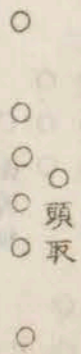
斥候ノ職分ハ山川地理ノ模様ヲ吟味シ他ノ新聞ヲ探索シ村ヲ求メ林ヲ探リ前後左右ニ心ヲ配リテ事アレバ直ニコレヲ本陣ニ告ルモノナリ

斥候ノ數ハ少クトモ三人ヨリ下ラス多クトモ三四十人ヲ限トス一組ニ頭取一人アリテコレヲ指揮ス敵地ニ深入シテ其様子ヲ探索セントスルニハ尽ク騎馬ヲ用ユ可シ

斥候ノ人数ハ多少ニ拘ハラス
其法則同様ニテ前後左右ニ人
ヲ近ツク可ラス何等ノ事アル
トモ大声ヲ發シテ敵ニ悟ラル
ルヲナカル可シ斥候ハ元戰ハ
レトスル趣意ノモノニ非ラサ
レバ唯探索ノ職分ヲ達スルノ
ミニテ成ル可キ夫ケ敵ヲ避ク
可シ其人数ノ配^分方ハ左ニ記セ
ル圖ノ如シ頭取ヲ中心ニ立テ
コレヨリ左右ノ端ニ至ルマデ
ノ距離^{タリ}。登ノ間ハ五間ヨリ三十
間ヲ限リ夜ハ二間三尺ヨリ十
二間三尺ヲ限ル斯ク人数ヲ間

近ク纏^マ置ク所以ハ昼夜トモ
人ノ影ヲ互ニ相見小音ニテモ
互ニ相聞ク可キカ爲ナリ
前条ニモ云ヘル如ク斥候ハ必
ス敵地ニ深入ス可ラス必ス敵
兵ト戰フ可ラス僅^僅カノ人数ニ
テ深入スルハ徒ニ死地ニ陥ル
モ同様ナリ但シ不幸ニシテ其
行列ノ間ヲ敵ニ絶切ラル、一
アラハコノキニハ止ヲ得ズレ
テ敵中ニ切込ミ再ヒ人数ヲ纏^マ
メン、一ヲ勉ム可シ斥候ノ勇ヲ
揮テ戰フ可キハ唯コノ一条ノ
ミ

七人又八十人
組合ノ斥候



五人組合ノ
斥候



四人組合ノ

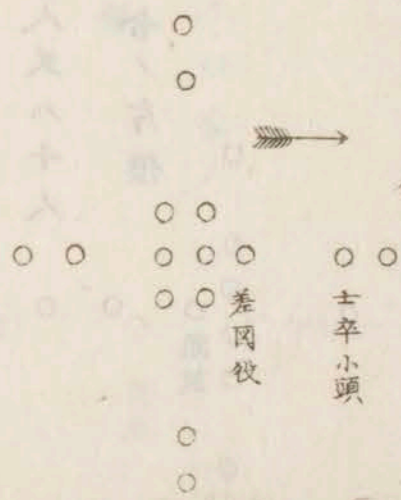
斥候



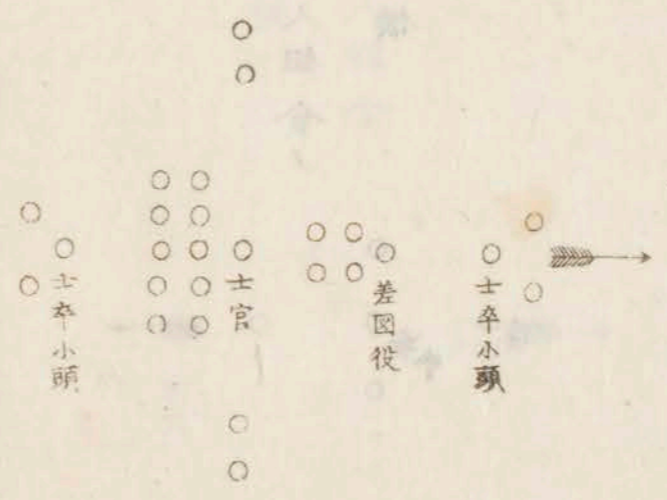
三人組合ノ
斥候



十二人又ハ十五人
組合ノ斥候



二十五人又ハ三十人
組合ノ斥候



相圖ノ事

遠方ヨリ味方ノ兵ニ知ラセシ
トスル一アラハ硝子鏡ノ小片
ヲ掌ニ當テ日ノ光ニ向テ耀カ
ス可レ其シ射三四里ノ霰ニマ
デモ達ス但シ日光ノ向アシク
シテハコノ法ヲ施ス可ラス又
夜中ハヨキ燧石ニテ火ヲ打テ
バコノ火花モ遠クマテ見ユル
モノナリ
敵ノ動靜ヲ探索シテコレヲ味
方ニ知ラセシトスル片使ヲ遣
ル可キ方便ナクバ其場所へ連
行キシ牛馬犬羊ノ類ヲ用ユ可

レ譬へハ犬ノ首ニ書翰ヲ綴^ツ付^ケ
テコレヲ放テハ其犬ハ必ス先
ニ出デシ本陣へ帰ルモノナリ
陣中コレニ由テ屢利ヲ得ルコ
アリ
烽火^レヲ舉ケ燈籠ヲ掛ケ或ハ樹^キ
梢^ニニアル古キ鳥ノ巢ヲ焼ク等
皆夜中ノ相圖ナレヒ山林又ハ
土地ノ高低ニ由テ全ク其用ヲ
成サズルコトアルカ故ニ預^コレ
ヲ試ミサル可ラス登ハ烟ヲ舉^テ
テ相圖ヲ爲シ甚ク遠方マテ見
ユルモノナリ生木^ナ腐木^ナヲ焼ケ
ハ其烟最モ盛ナリ○烽火ヲ舉

ルニハ五十間モ離シテ二處ニ
火ヲ起セバ遠方ヨリコレヲ見
ルニ最モ便利ナリ
或ハ又隔タル場所ノ間ニ頃々
ニ人ヲ立タセ帽子ナドニテ相
圖ヲナシ次第ニコレヲ傳へテ
事要ヲ知ラス可シ人ノ手ヲ以
テ相圖ヲ爲スニ四通リノ仕方
アリ世上一般ニ用ユ可キ法ナ
リコノ外種々ノ手様モアル可
キナレ氏コレヲ用ヒントセバ
却テ混雜ヲ生ス可キカ故ニ先
ツコノ四通リヲ實用ニ施ス可
シ其取左ノ如シ

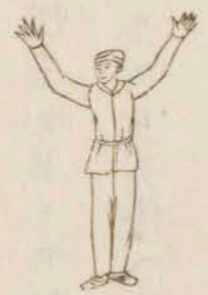
第四



第三



第二



第一



第一 テ又 拭ナドヲ振ルハ コナラ 必震ヲ

見ヨ又ハ コナラ 必震へ来レト云フ相

圖ナリ

第二両手ヲ揚ルハ衆知セリソ

レニテ宜シト云フ相圖ナリ

第三両手ヲ下ルハ不衆知宜シ

カラズト云フ相圖ナリ

第四両手ヲ廣ケルハ止マレト

云フ相圖ナリ

相圖ヲ為スニハ先ツ第一 コナラ 必震

ヲ見ヨトノ手様ヲ示シ先方ニ

テコレニ答レハ則チ当用ノ相

圖ヲナスヲ五度ヒニシテ先方

ニテモコレニ答ルヲ五度ヒ終

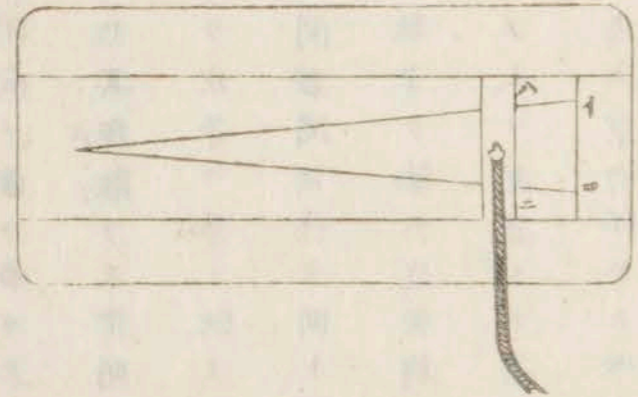
テ双方衆知ノ相圖ヲナス
紙カミ鷹トビヲ糺シテ登ノ相圖トナシ
又吹出シ花火ノ類ヲ其尾ニ附
ケナバ夜ノ相圖トモナル可シ
ト云フ
斥候ノ者ヨリ味方ヘ相圖スル
ニハ騎馬ニテモ徒歩ニテモ右
回りニ回り或ハ左回りニ回り
テ其時ノ様子ヲ知ラス可シ或
ハ又數人ノ斥候頃々ニ路傍ニ
隠レ互ニ相見ル可クシテ互ニ
相聲ヲ發セズ手真似ニテ頃々
ニ傳ヘ敵ノ様子ヲ味方ノ本陣
ニ告ルヲアリ即チ敵兵ノ足音

ヲ聞ケリト云フトキハ指ニテ
自分ノ耳ヲ押ヘ敵兵ノ近寄ル
ヲ見タリト云フ其ハ目ヲ押ヘ
敵兵ニ声アリト云フ其ハ口ヲ
押ヘ其他指ヲ以テ敵兵ノ數ヲ
示ス等種々ノ相圖ヲナス可シ
遠近測量ノ事

遠近ノ測量ニ最モ簡便ナル法
ハ腕ヲ伸バシテ上下真直ニ一
本ノ棒ヲ持チ棒ヲ隔ルヲ二十
五間ノ數ニ一人ノ男ヲ立タセ
其人ノ頭ノ頂ヨリ足ノ端ニ至
ルマデヲ棒ニ見通シテ其長サ
ニ棒ヲ切り其棒ノ長サヲ八ニ

分テ印ヲ付レハ則チ測量ノ器
 械ナリ譬ヘハ遠方ニ敵兵ヲ見
 テ其遠近ヲ測シトスルニ腕ヲ
 伸ハシテ右ノ棒ヲ持テ其人ヲ
 見通シテ人ノ高サ棒ノ長サノ
 半ナレハ即チ八分ノ四ニシテ
 其距離ハ二十五間ヲ四倍シタ
 ル百間ナリト知ル可シ人ノ高
 サ棒ノ長サノ八分一ナレハ即
 チ二十五間ヲ八倍シタル二百
 間ナリ○九ツ人ノ長ハ平均五
 尺四寸ヲ定トスルモノナレハ
 初メ棒ヲ作ルキモ二十五間ノ
 處へ態々人ヲ立タセズトモ五

尺四寸ノ物ヲ目ぎトモテ筆
 ムマシ
 測量ノ法ヲ精密ニセレニハ版
 金ニテ圖ノ如キモノヲ作ルハ
 シ



版ニ三角ノ孔ヲ明ケコレニ指
 金ヲ附ル丁ハニノ如クシ左右

ニ動ク可シコノ三角ノ孔ヨリ
遠方ノ人ヲ見通シ警ヘハ其人
ノ高サ①②ノ處ニ當リテ一杯
トナレハ其距離ヲ五十間トシ
コレヨリ次第ニ孔ノ狭キ方ヘ
七十五間百間百五十間ト版ノ
上下ニ數字ヲ記シ置キ前ノ如
ク遠方ノ人ヲ見通シテ其人ノ
高サ孔ノ上下一杯ニナル處ヘ
摺金ヲ動カレテ其距離ヲ測ル
可シ○版金ト取トノ間ハ常ニ
同様ナルヘキカ故ニ金ニ糸ヲ
附ル一圓ノ如クニ糸ノ端ニ玉
ヲ附ケコレヲ口ニ啜ヘ右ノ手

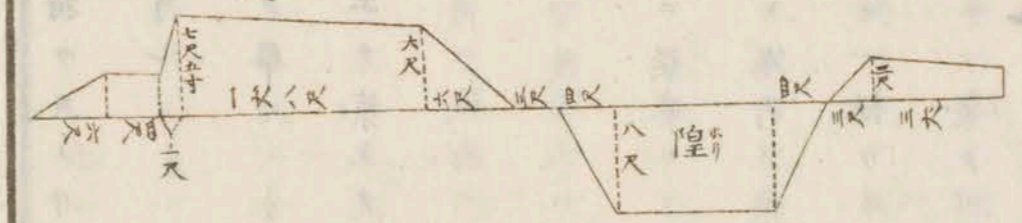
ニテ版金ヲ持チ左ノ手ニテ摺
金ヲ動カス可シ

野戦砦ノ事

野戦砦トハ土ヲ築立タル長キ
土堤ニテ其用ハ戰場ニ於テ味
方ノ人數ヲ守護シ或ハ都府ヘ
敵兵ノ不意ニ襲來ルヲ防ク夕
メノモノナリ場所ノ模様ニ由
テ土堤ノ形モ一樣ナラス或ハ
必スシモ土ニテ築ク可キニモ
非テス砂、石、材木、ナド種々ノ品
物ヲ用ユルトモアレバ先ツ常
式ハ地ヲ掘リ其土ヲ搥揚ケテ
土堤トナシ土堤ハ以テ敵兵ノ

彈丸ヲ防キ且其土ヲ極揚ケタル跡モ自カラ墮トナリテ防禦ノ助トナス可シ斯ク築キタル土堤ヲ胸壁ト名ク其取左ノ如シ

胸壁ヲ横ニ切タル圖



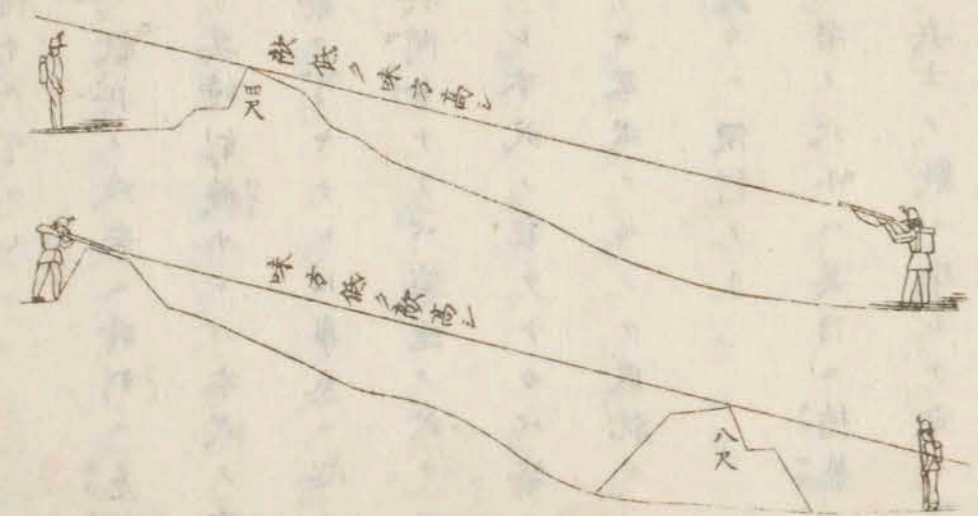
上堤ノ厚サハ敵砲ノ大小ニ準レテ同レカラヌ其割合大凡左ノ如クニレテヨク敵ノ彈丸ヲ防ク可キ

敵兵ノ砲類	土堤ノ厚サ
小銃	五尺
六斤砲	六尺
九斤砲	九尺
十二斤砲	一丈二尺
十八斤砲	一丈八尺
二十四斤以上	二丈ヨリ二丈
ノ大砲	四尺

右ノ圖ニハ土堤ノ厚サヲ一丈八尺ト記シタレド野戦若ニハ

大砲ノ彈丸ヲ受ルル補ナレバ
 大依一丈一尺ニテ十分ナル可
 シ
 土堤ノ高サモ土地ノ模様ニ由
 テ相違アル可シ平地ナレバ七
 尺五寸ヲ以テ常式トスレバ款
 ノ地面低クシテ味方ノ地面高
 ケレバ土堤ノ高サヲ四尺乃至
 六尺トナス可シ又コレニ及シ
 テ味方ノ地面低ク敵ノ地面高ケ
 レバ土堤ノ高サヲ階シテ八尺
 乃至一丈一丈二尺トナス可シ
 故ニ土堤ノ高サハ四尺ヨリ一
 丈二尺ヲ限トシ其厚サハ四尺

ヨリ二丈五尺ヲ限トス是即チ
 一般ノ規則ナリ



野戦者ヲ築クニハ左ノ三ヶ条ヲ

心得ナル可ラス

第一款兵ノ攻来ル時刻ニ急緩

アリ其時刻緩ナレバ本式ノ若

ヲ築ク可キナレト事急ニ起リ

テ其間合ナクバ築造ノ式ヲ畧

スベシ本式ノ若ヲナカバ築ト

ヨリモ畧式ノモノヲ成就セシ

方遙カニ便利ナリ

第二若ノ大小ハ其内ニ楯籠ル

可キ兵士ノ數ニ準シテ定ム可

シ大抵土堤ノ長サ一尺五寸ニ

付兵士一人ノ割合ヲ以テ常法

トス譬へハ若ノ兵士四百人ナ

レバ土堤ノ長サヲ百間ヨリ延

ハス可ラス

第三若ヲ築クニ土方ノ人數十

分ニシテ且土木モ澤山ナレハ

本式ニ築造ス可キナレト時宜

ニ依リ止ヲ得サルキハ先ウツ

レヲ畧シ置キ造テ修覆ヲ加フ

可シ譬へハ本式ナレハ高サ六

尺ノ土堤ヲ築ク可キ若ナレト

コレヲ畧シテ深サ三尺ノ溝ヲ

掘リ其土ヲ掘揚テ三尺ノ土堤

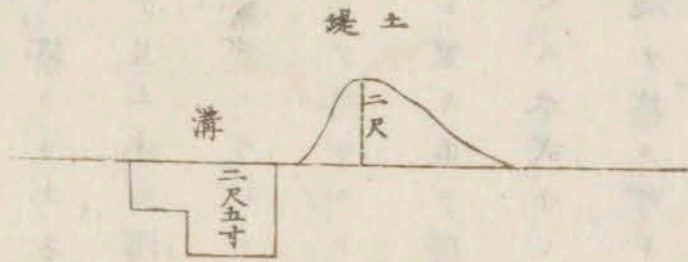
トナセハ則チ六尺ノ土堤ノ代

用ヲ為ス可シ然ルキハ三分一

ノ手間ヲ以テ一時ノ用ヲ達ス

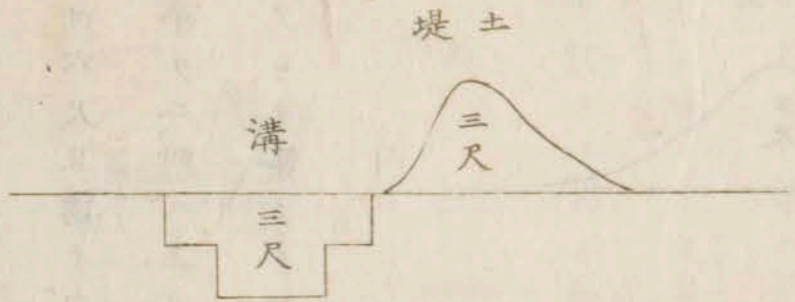
十三
可シ左ニ記セル圖ハ深サ二尺

五寸ノ溝ヲ堀リ其土ヲ搔揚テ
高サ二尺ノ土堤トナシ味方ノ
兵士ハ溝ノ内ニ伏シテ敵ノ彈
丸ヲ避クルモノナリ

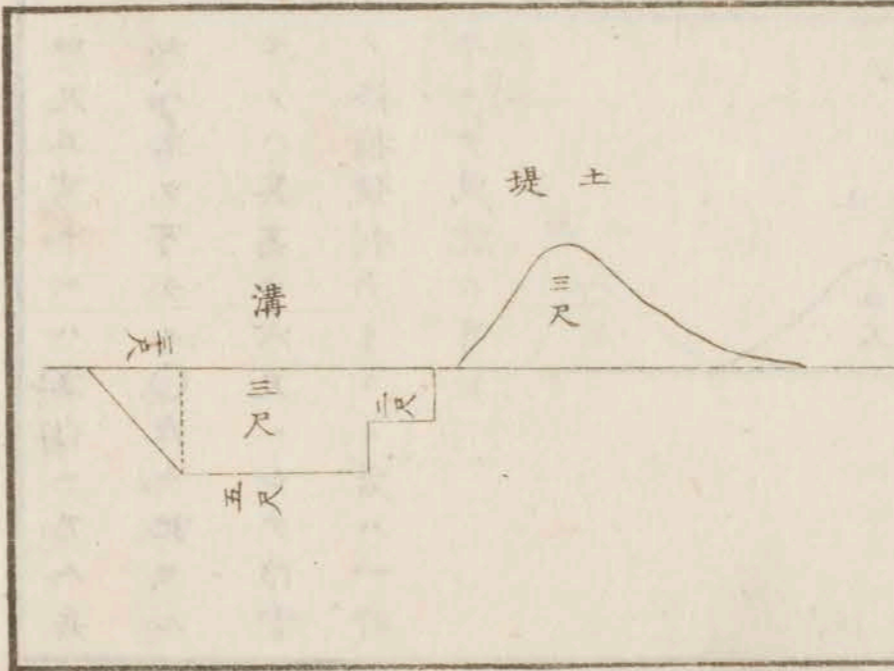


右ノ礮ハ七分五厘ノ時刻ニ築
終ル可シ然レモ惣高サ僅カニ

四尺五寸ナレハ溝内ニアル兵
士ハ立ツ可ラス○左ニ記セル
モノハ其高サ六尺ニシテ防禦
ノ法稍便利ナリコノ礮ハ一時
半ニテ成就ス可シ



左ノ若ハ十分ニ整ヒシモノニ
 テ惣高サ六尺且溝ノ中モ廣ク
 シテ兵卒ヲ二列ニ立タシム可
 シ但シコレヲ築クニハ二時半
 ヲ費ス



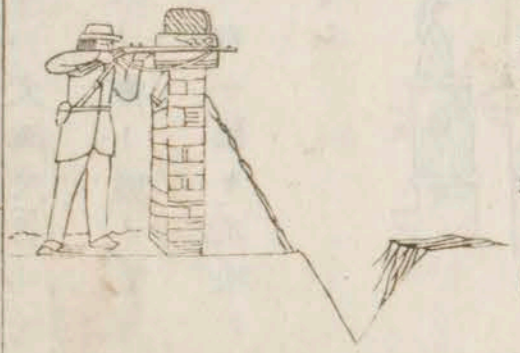
或ハ又田野ニ自然ノ土堤アリ
 コレニ少シク手ヲ入レハ堅固
 ナル若ト為ヌ可シ殊ニ其土堤
 ノ上ニ樹木ヲ生シ土堤ノ下ニ
 溝アレバ最モ妙ナリコノ土堤
 ヲ若トナスニハ唯土堤ノ内ノ
 方ヲ少シク掘リテ足場ヲ作ル
 ノミ左ニ記セル圖ノ如シ



左ノ圖ハ溝ノ内ニ居テ土堤ノ外ヲ防ク法ナリ其土堤若シ六尺ヨリモ高クバコレヲ切落トス可シ都テ自然ノ土堤ヲ若トナスニハ土堤ノ頂ノ中ヲ削リテ一尺五寸半ニ為ス可シ溝ノ内ヨリ放蕪スルニハ其底ヲ平ニナシ若シ甚タ深ケレハ踏臺ヲ用ユ可シ



七寸ニ三分ノ焼瓦ヲ積ミタル堀ハ小銃ノ玉ヲ防ク可シ日本焼瓦ノ堀ナレ先ツ鍊堀ヲ以テコレニ當ツ可シ但シ鍊堀ニ玉ノ通ルヤ否ハ試者コレヲ知ラズ兵士宜ク自カラ試ム可シコノ堀ノ高サ四尺ナルモノハ別段手ヲ入ルニ及バス唯其頂ニ砂ノ袋ヲ積ミテ銃眼ヲ作ルノミ若シ間合アラバ堀ノ外ニ溝ヲ掘テ其土ヲ堀ノ際ニ掻揚ク可シ



練堀ノ高サ一丈五尺ナレバ地面ヨリ八尺ノ覆ト堀ノ頂上トへ銃眼ヲ二段ニ開キ足場ヲ架テ放蕨ス可シ



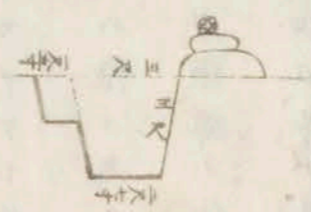
高サ八尺ノ練堀ニモ二段ニ銃眼ヲ開クヘシ但シ下段ヨリ放蕨スルニハ堀ノ内ニ溝ヲ掘リテ其中ニ立チ上段ヨリ放蕨スルニハ足場ヲ架ベシ



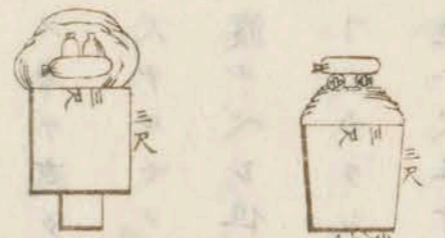
急場ノ時ニハ何品ニテモ防禦ニ用ユ可ラサルモノナレ或ハ桶ニ砂ヲ盛り或ハ俵ニ土ヲ詰メ或ハ米俵或ハ炭俵綿ノ俵及物ノ包、疊、飼葉、瓦、切石等ヲ積立テ俵ニ一時ノ砦トナス可シ又或ハ樹木ヲ切倒シ柱ヲ横夕ヘ大八車、鋤、鋤、熊手、涼榻、踏、桶、盥、雜具雜物ヲ道路ニ投出シ網ニテ繋合セテ岡々地面ニ留置クテハ大ニ敵兵ノ通行ヲ妨ケテ勝利ヲ得ルコトアリ又急卒ノ時ニ當テ砦ヲ築ク間合ナクハ兵士ハ銘々ニ穴ヲ堀

テ一身ヲ防禦シヨノ穴ノ中ヨ
 リ放蕪ス可シコレヲライフル
 ビツト云フ其地ヲ掘ルト四
 方三尺深サモ三尺ニシテ其土
 ナ前ノ方ニ擡揚テ土ノ上ニ砂
 ノ袋ヲミツ積テア銃眼トナシ
 以テ野戦者ノ代用トナス穴ノ
 後ノ方ニ段ヲ付タルハ出入ヲ
 便利ニスルタメナリ

横ヨリ見
タル圖



後ヨリ見
タル圖
上面ヨリ見
タル圖



河ヲ渡ル事

徒歩ニテ河ヲ渡ラレトスル片
 先ツ第一ニ探索ス可キトハ左
 ノ条々ナリ即チ河底ノ堅キト
 軟ナルト凸凹ナルト平ナルト
 長キト短キト廣キト狭キト深
 キト浅キト流ノ急ナルト緩ナ
 ルト上リ場ノ便利ナルト不便

利ナルトヲ吟味ス可シ○徒歩
ニテ渡ル可キ水ノ深サハ騎馬
ナレハ四尺三寸ヲ限トシ歩兵
ナレハ三尺ニ寸ヲ限トス但シ
河ノ流甚タ急ナラス且其流ニ
從テ斜ニ渡レハ歩兵ニテモ馬
ニ取付キテ四尺ノ水ヲ渡ル可
シコレニ反シテ河ノ流最モ劇
ク且其底ニ凸凹アレハ淺シト
虽尺渡ル可ラス車ヲ渡タスニ
其輪ノ中徑五尺ナルモノハ深
サ四尺ノ水ヲ渡ルベシ但シ車
中ノ物ヲ濕スナカラントス
ルニハ二尺乃至二尺五寸ヨリ

深キ處ヲ渡ル可ラス河ノ淺瀬
ハ大抵其曲レル處ノ上下ニテ
斜ニアルモノナリ河底ノ足場
ニ最モ宜シキモノハ小石ナリ
岩ノ滑ルモノハ甚タ危シ恐ル
ベシ底ノ様子ヲ探索スルニハ
小舟ヲ用コミキナレ尺舟ナク
ハ騎馬ヲ用ヒ或ハ水練ニ達シ
タル者ヲシテ杖ノ端ニテコレ
ヲ探ラシム可シ河ノ深クシテ
渡ル可ラサル處ハ槩ヲ束子テ
コレヲ沈メ其上ニ石ヲ投レ次
等ニ小石ヲ聚テ、底ヲ作ル可
シコノ術ヲ用ユレハ狹キ河ハ

何程深クトモ渡ルベシ河ヲ渡
上ル霞ノ地面軟ナラバ廣ク架
ヲ敷テ人殺ヲ一時ニ上陸セシ
ム可シ右ノ如ク渡場ノ道ヲ作
ルルハ其道筋ニ沿ヒ上流ノ方
へ枕ヲ立テ、目印トナシ或ハ
又河ノ流急ナレハコノ枕ニ網
ヲ張テ手寄トナス可シ○河ノ
流急ナル所ハ騎兵ヲ上流ニ渡
タレ歩兵ヲ下流ニ渡タセバ馬
ニテ流ノ勢ヲ殺ク可シ然レモ
河ノ底砂ナレハ騎兵ハ後ニ渡
タス可シ馬ノ足ニテ砂ヲ撥
クテ大ニ深サヲ増レテ歩兵ノ難

洪スル下ノリ

氷ノ上ヲ渡ル事

氷ノ厚サ一寸六分ナレバ歩兵
ヲ渡タス可シ三寸二分ナレバ
騎兵及セ輕キ大砲ヲ渡タス可
シ四寸八分ナレハ重キ大砲ヲ
渡タス可シ六寸四分ナレバ二
十斤ノ大砲ヲ擡ニ載セテ渡
タス可シ但シ六寸四分ノ氷ニ
ハ一尺四方ニ付キ重サ千斤以
上ノ物ヲ渡タス可ラス
氷ノ厚サ未タ十分ナラザレバ
薪ヲ刈テ氷ノ上ニ敷キコレニ
水ヲ灌テ凍レバ又水ヲ灌キ次

等ニ厚キ氷ヲ作テ重キ車ニテ

モ渡タスベシ

敵ノ大砲ニ釘打ツ事

大砲ノ火門ニ釘ヲ打ツ趣意ハ

敵ヲミテコレヲ用ユルナカ

ラシモノニカクメナリ其法鋸ノ

齒ノ如ク疵付タル剛鉄ノ釘ヲ

火門ニ打込ニ釘ノ端ヲ砲ノ外

面ニ等シク切リテ尚コレヲ打

チ火門ノ内ニテ釘ノ端ヲ打潰

ス可シ或ハ剛鉄ノ釘ノハ尋

常ノ釘ニ頭ナキモノヲ用ユル

モヨシ或ハ又彈丸ニ切リ卷キ

筒ノ底ニ打込ニ尚又コレニ鉄

ノ栓ヲサスナリ銅製ノ大砲

ナレハ破裂彈ヲ込メ筒ノ内ニ

テ破裂セシメ或ハ彈丸ノ碎片

ヲ込メ過量ノ火薬ヲ以テ放蕩

シ筒ノ内面ヲ損ス可シ或ハ又

多量ノ火薬ヲ込メ其上ニ筒口

マデ砂ヲ詰テ放蕩スルナリ

或ハニ銃ノ筒ヲ筒口ト筒口ト

向合セテ放蕩スルナリ或ハ

火ヲ以テ筒ノ前部ヲ焼キコレ

ヲ打テ曲クルナリ或ハ又鉄

製ノ筒ナレハ其軸ヲ打折リ或

ハ多量ノ火薬ヲ込メ筒ノ底ヨ

リ筒口ニ至ルマテ彈丸ヲ詰メ

勾配ヲ高クシテコレヲ放發シ
コレニ由テ其筒ヲ破裂スル
アリ

釘打タル大砲ヲ繕ノ事

火門ニ打込タル釘ニ螺旋ノ仕
拭ナクハ筒ヨリ彈丸半量ノ
火藥ヲ込メ其上ニ麻屑枯草等
種々ノ雜物ヲ固ク詰込ミ筒口
ヨリ長ク道火ヲ附テ火藥ヲ發
スレハ其勢ニテ火門ノ釘ヲ抜
クベシ但シ銅製ノ筒ナレハ火
門ノ釘ノ周圍ヲ必シク掘テ
レニ硫酸ヲ灌キ一二時ヲ経テ
後ニ此術ヲ施ス可シ○右ノ如

ク度々試テ功ヲ遂ケサレハ止
ヲ得スミテ銅ノ筒ナレハ火門
ノ螺旋ヲ抜キ鉄ノ筒ナレハ鑿
レテ釘ヲ抜クヨリ他ニ方術ナ
シ

筒ノ中ニ栓ヲ以テ打込タル彈

丸ヲ抜クニハ先ツ火門ノ螺旋
ヲ抜キ其孔ヨリ轄ヲ打込テ彈
丸ヲ必シク前ノ方へ押シ又コ
レヲ本ニ返シテ彈ノ周圍ニサ
シタル栓ヲ抜クベシ或ハ其栓
ヲ抜カズシテ彈丸ノ本ニ火薬
ヲ込メテ火ヲ点スルヲモアリ
百方ニ術ヲ盡シテ彈丸ヲ出ク

ス丁能ハズバ筒ノ底ニ大ナル
孔ヲ明ケテコレコリ弾丸ヲ出
タシ又コノ孔ヲ塞クベシ

陣中死刑十四ヶ条ノ事

亞米利加合衆國ノ軍律ニ於テ
死刑ニ行フ罪状左ノ如シ
第一陣中ニ於テ謀反ヲ企或ハ
之ヲ煽動シ或ハコレニ一味ス
ル者

第二謀反人ヲ見テコレヲ取押
ヘサル者或ハ謀反ノ様子ヲ知
テコレヲ指揮官ヘ告サル者
第三上官ノ号令ニ従ハス或ハ
上官ノ人ニ向テ乱暴ヲ働キ或

ハコレヲ打擲シ或ハコレニ武
器ヲ指向ケタル者

第四戦争ノ代ニ持前ノ職分ヲ
怠タル者

第五士官又ハ兵卒ニ勸メテ其
持前ノ職分ヲ怠タラシメタル
者

第六番兵ノ眠タル者或ハ当番
ノ交代ヲ待タズシテ番所ヲ去
タル者

第七謂ナク鉄砲ヲ放チ或ハ剣
ヲ抜キ或ハ太鼓ヲ打テ兵隊ヲ
騒カシタル者

第八兵隊ヘ食料其外必用ノ品

ヲ持来リシ者へ對シテ乱暴ヲ
働キシ者

第九款ニ對シテ不行跡ナル体

ヲ示シ或ハ卑怯ニシテ守ル可

キ場所ヲ棄テ遁逃シ或ハ人ニ

勸メテ遁逃セシメ或ハ彈藥武

器ヲ棄テ或ハ職分ヲ忘レテ款

ノ物ヲ掠奪シタル者

第十相圖ノ言葉ヲ謂ナク人へ

告タル者或ハ相圖ノ言葉ヲ誤

タル者

第十一他國ニテセーフガルド

ノ趣意ヲ破タル者 平人ヲ守護
スルタメ其

者へ渡シタル
印鑑切手ノ類

第十二金錢食料彈藥ヲ款ニ與

へ或ハ竊ニ款ヲ助ケタル者

第十三款ニ内通シタル者

第十四指揮官ニ迫テ款ニ降参

セシメ或ハ城ヲ明渡サシメシ

者



兵士懷中便覽終

莊南圖

仙台市・東一番町

